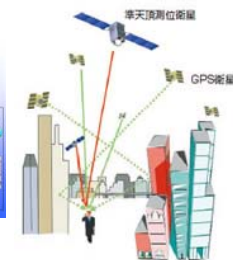
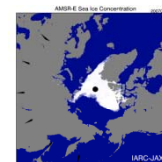
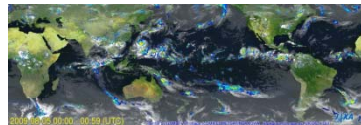
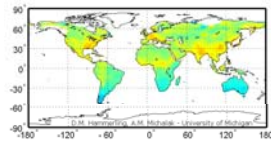
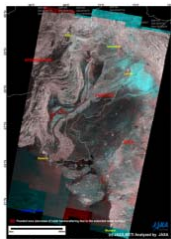




「宇宙利用シンポジウム2011 ～人工衛星利用 が拓く！日本の未来！地球の未来！～」 の開催結果について



平成23年3月2日
宇宙航空研究開発機構
宇宙利用ミッション本部
事業推進部長 浜崎 敬

1. 報告事項

平成23年2月17日(木)に開催した「宇宙利用シンポジウム2011～人工衛星利用が拓く！日本の未来！地球の未来！～」の開催目的および開催結果概要について報告する。

2. シンポジウム開催の経緯・目的

(1) 経緯

これまでJAXAの衛星利用分野では、主に衛星ミッションごとのテーマを中心とした専門家向けや一般向けのシンポジウムを開催してきた。しかし、近年の、複数地球観測衛星データの統合利用や地球観測衛星と通信衛星の複合利用の進展に鑑み、衛星利用全般をテーマとしたシンポジウムを開催することとした。

(2) 目的

- ①地球観測衛星、通信衛星、測位衛星全般の幅広い分野での利用の現状を紹介し、衛星の利用の意義と可能性についての理解を深めていただく。
- ②産学官各界の宇宙利用関係者から、人工衛星利用の意義と将来への期待についてご意見をいただく。

(3) 情報発信

より多くの方々に人工衛星利用の意義と必要性を理解していただくために、新聞、テレビ、WEB配信を用いて、シンポジウム会場に来場できない方々にも効果的に情報発信する。

3. 開催状況

(1) 日時:平成23年2月17日(木)

第1部(主として宇宙利用関係者が対象) 16:00~18:15

第2部(主として一般向け) 18:30~20:00

(2) 場所:丸ビルホール (東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル7階)

(3) 主催:宇宙航空研究開発機構

後援:宇宙開発戦略本部、文部科学省、総務省、国土交通省、経済産業省、環境省、
株式会社テレビ東京、株式会社日本経済新聞社

(4) プログラム:別添参照

(5) 展示:

JAXA展示:だいち地球観測画像(地球遺産、森林マップ、災害監視等)、だいち床敷マップ(東京都心)

企業展示 :だいち画像ライセンス商品

(6) 来場者:431名

(7) シンポジウム内容のインターネット生中継を実施。



3. 結果概要 (その1)

(1) 第1部

①JAXA立川理事長挨拶

②来賓ご挨拶: 文部科学省 笹木 竜三 副大臣

宇宙開発戦略本部 阿久津 幸彦 内閣府大臣政務官

③本間理事による本部メッセージ紹介の後、

「準天頂衛星利用」

「放送・通信分野における人工衛星利用」

「災害監視における人工衛星利用」

「地球環境分野における人工衛星利用」

「海洋分野における人工衛星利用」

について、各々の意義と将来への期待に関する各講演を行った後に、「衛星による災害監視の意義」や「北極海観測の地球温暖化問題における位置づけと衛星が果たす役割」等の、事前受付した質問及び会場からの質問に回答。



立川理事長挨拶



笹木副大臣ご挨拶



阿久津政務官ご挨拶



第1部 質疑応答コーナー

3. 結果概要 (その2)

(1) 第1部の概要

① 準天頂衛星利用の現状と将来 JAXA 寺田 弘慈 準天頂衛星システムプロジェクトマネージャ

・準天頂衛星システムによって可能となる「測位精度の向上、測位可能時間の向上、緊急情報等の地上への送信」に基づいた、準天頂衛星システムによって実現可能な将来像を紹介。

② 放送・通信分野における人工衛星利用の意義と将来への期待

スカパーJSAT株式会社 宇宙・衛星事業本部 前田 吉徳 宇宙ビジネス推進部部長

・災害等によって地上の通信網が遮断された際のバックアップ及び通信ルートの二重化のためにも、衛星による放送・通信利用の意義が大きいことについて紹介するとともに、放送通信のスーパーハイビジョン化等の高度化の中での通信衛星に対する期待の大きさを述べられた。

③ 災害監視における人工衛星利用の意義と将来への期待 砂防・地すべり技術センター 池谷 浩 理事長

・災害発生時には上空や地上からの可視観測が制限されることが多いため衛星による観測が必須であり、また、広範囲な被害を把握して二次災害防止のためにも衛星観測が必要であることを紹介するとともに、観測精度向上等によって一層の国際貢献していくことへの期待について述べられた。

④ 地球環境分野における人工衛星利用の意義と将来への期待 東京大学生産技術研究所 沖 大幹 教授

・気候変動、温室効果ガス、水循環等の地球環境観測において衛星による地球観測データは大きな貢献を果たしており、地球観測分野における日本の技術が世界に存在感を示していることを紹介するとともに、一層の貢献のための国としての支援の必要性についての期待を述べられた。

⑤ 海洋分野における人工衛星利用の意義と将来への期待 海洋研究開発機構 堀田 平 理事

・JAXAとの共同実証実験の事例を紹介するとともに、衛星通信を利用した海洋データの収集・共有や、地球環境分野での衛星と船舶による観測等、宇宙と海洋の連携に関する大きな可能性についての期待を述べられた。

3. 結果概要 (その3)

(2) 第2部

①向井宇宙飛行士による「地球温暖化と健康」をテーマにした講演。

・熱中症、黄砂、伝染病等の地球温暖化と健康との関係について解説するとともに、衛星および宇宙ステーションからの地球観測の有効性についての期待が述べられた。

②「ここが知りたい！私たちの身近で利用される人工衛星」をテーマにしたディスカッション。

・WEB申込時に事前質問を寄せていただいた方々の中から選ばれた一般の方2名(主婦と女子高生)、衛星ユーザ2名(都立広尾病院医師、株式会社イデー常務取締役)、向井宇宙飛行士及び宇宙利用ミッション本部職員2名が登壇。

・WEB申込時に事前にいただいた質問をベースに、「通信衛星による遠隔医療」、「だいち画像を用いたデザイン商品」、「災害監視」、「地球環境監視」、「衛星測位による農業の自動化」、「地球観測データによる魚群探知」等の事例、宇宙開発に携わるための教育、人工衛星利用の意義についてのディスカッションを実施。



第2部 パネルディスカッション

3. 結果概要 (その4)

(3) アンケート結果概要

- ①全体的には好意的な意見が多かった。
- ②第1部の講演については、「もう少しじっくり聞きたかった」という意見があったものの、「幅広い分野での利用例が聞けて良かった」という意見が多数であった
- ③第2部のパネルディスカッションについては、「人工衛星を身近に感じさせてくれるセッションだった」等の好意的意見が多数あった。

(4) JAXAとしての評価(まとめ)

- ①第1部、第2部を通じて、地球環境観測、災害監視・通信、衛星測位、身近な衛星利用及び宇宙と海洋の連携について、幅広い分野のユーザからの意見と期待を紹介でき、宇宙利用関係者の共通認識を得ることができた。
- ②アンケートでも、「人工衛星が多分野で利用されることに驚いたが、その現状と将来を理解することができ、人工衛星の重要性を感じた」等の「理解が深まった」という主旨の意見が多く、「地球観測衛星、通信衛星、測位衛星が果たす役割や重要性、期待についての理解増進を図る」という本シンポジウムの目的は達成できたと考える。

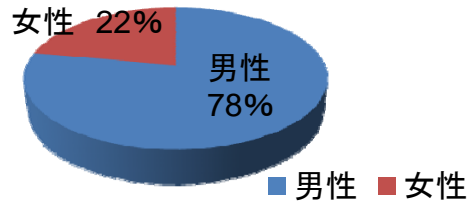
4. 今後の予定

- (1) 今回のアンケート結果を今後のシンポジウム開催等に反映し、より効果的な情報発信を行うことによって、「人工衛星が果たす役割」についての理解増進を図る。
- (2) 今回のシンポジウム内容については以下のメディアで紹介される予定。
 - ・日本経済新聞 3/4(金) 夕刊
 - ・テレビ東京 3/6(日) 16:55~17:15の20分番組の一部

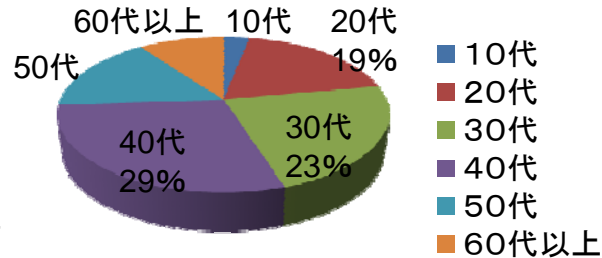
《参考》

1. 参加者内訳

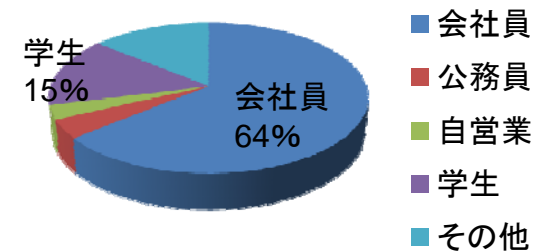
(1) 男女別構成



(2) 年齢別構成



(3) 職業別構成



2. アンケート結果 (回収数 262)

(1) 全体的評価

非常に良かった 32% 良かった 52% 普通 14% 悪かった 2%

(2) 主なコメント

- ・現状の衛星の利用状況と今後の可能性がよくわかった。
- ・人工衛星が私たちの生活に不可欠なものであることが実感できた。
- ・人工衛星が多分野で利用されていることに驚いたが、その現状と将来性を理解することができ、人工衛星の重要性を感じた。
- ・自分自身も宇宙開発に携わっているが、衛星が広い分野で活用されていることに驚いた。
- ・だいち画像がファッション等にも利用されているのは驚き。いろいろな利用方法があると感じた。
- ・みちびきの後継機は絶対に必要と感じた。
- ・第1部は、短時間ではあったが幅広い衛星利用分野の話聞いてよかった。
- ・多くの分野を紹介したいのだろうが、第1部の講演時間が短すぎた。もっとじっくりと聞きたかった。
- ・第1部の質疑応答の時間をもっと長くして欲しかった。
- ・第2部は人工衛星を身近に感じさせてくれるセッションで、非常におもしろかった。
- ・専門的な話と一般向けのわかりやすい話とがあり、非常に楽しめた。
- ・1部、2部ともにアシスタントがいるなど、これまでのJAXAにない華やかなシンポジウムで良かった。
- ・女子高生や主婦を登壇させたのは画期的。身近感が持てて良かった。

宇宙利用シンポジウム2011 ～人工衛星利用が拓く！日本の未来！地球の未来！～ 別添

【プログラム】（敬称略）

- 第1部** 総合司会 科学ジャーナリスト 寺門 和夫 アシスタント 流川 ミサ
- 16:00-16:05 開会挨拶:JAXA理事長 立川 敬二
- 16:05-16:10 来賓ご挨拶:文部科学省 副大臣 笹木 竜三
- 16:10-16:15 来賓ご挨拶:宇宙開発戦略本部内閣府大臣政務官 阿久津 幸彦
- 16:15-16:20 「JAXA宇宙利用ミッション本部からのメッセージ」 JAXA理事 本間 正修
- 16:20-16:35 「準天頂衛星利用の現状と将来」
JAXA準天頂衛星システムプロジェクトマネージャ 寺田 弘慈
- 16:35-16:50 「放送・通信分野における人工衛星利用の意義と将来への期待」
スカパーJSAT株式会社 宇宙・衛星事業本部 宇宙ビジネス推進部部長 前田 吉徳
- 16:50-17:05 「災害監視分野における人工衛星利用の意義と将来への期待」
財団法人 砂防・地すべり技術センター理事長 池谷 浩
- 17:05-17:20 「地球環境分野における人工衛星利用の意義と将来への期待」
東京大学生産技術研究所教授 沖 大幹
- 17:20-17:35 「海洋分野における人工衛星利用の意義と将来への期待」
独立行政法人 海洋研究開発機構理事 堀田 平
- 17:35-18:10 「人工衛星利用が拓く！日本の未来！地球の未来！」 ～会場参加者・講演者・JAXA関係者による質疑応答～
- 18:10-18:15 クロージング(総合司会)

- 第2部** 総合司会:テレビ東京アナウンサー 大江 麻理子
- 18:30-18:55 「地球温暖化と健康」 JAXA宇宙飛行士・医学博士 向井千秋
- 18:55-19:55 「ここが知りたい！私たちの身近で利用される人工衛星！」
コーディネータ 大江 麻理子 アシスタント 八田 亜矢子
東京都立広尾病院 救急救命センター医師 城川 雅光
株式会社イデー常務取締役 川渕 恵理子
JAXA宇宙飛行士・医学博士 向井 千秋
JAXA準天頂衛星システムプロジェクトマネージャ 寺田弘慈
JAXA防災利用システム室長 滝口 太

※登壇者から各々の立場で衛星利用について簡単に紹介いただいた後に、若干名の質問希望者に登壇してもらい、質疑応答を行う中で、地球観測衛星、通信衛星、測位衛星の身近さを紹介する。

- 19:55-20:00 クロージング（総合司会）